

あしよろ・ハードサポート通信

日が短くなり、徐々に気温も下がり、朝晩は氷点下になる日が増えてきました。乳牛は寒さに強い動物ですが、子牛は別です。これからは、子牛の体調に一喜一憂させられるシーズンでもあります。

◆ 生まれた子牛をあたためる

母牛が新生子牛の羊水をきれいに舐め取ってくれると良いのですが、寒冷期の屋外での分娩では、濡れたままの子牛はどんどん体温を奪われます。去年は町内でも、子牛を温めるためのドーム型ヒーターが多く導入されました。



写真はさまざまなドーム型ヒーターです。ドームの中に子牛を入れ、温風で一定時間子牛を温めます。本来、初乳は生後できるだけ早く飲ませたいのですが、体温が上がると哺乳欲が増すことから、新生子牛を一定時間ドームで温めたのちに初乳を給与している酪農家さんもいます。

出生直後だけではなく、下痢などで体調を崩して食欲が落ちた哺乳子牛も、温めると哺乳欲が上がるので、ドームは哺乳舎の近くに設置することをお奨めします。

◆ 初乳のおさらい



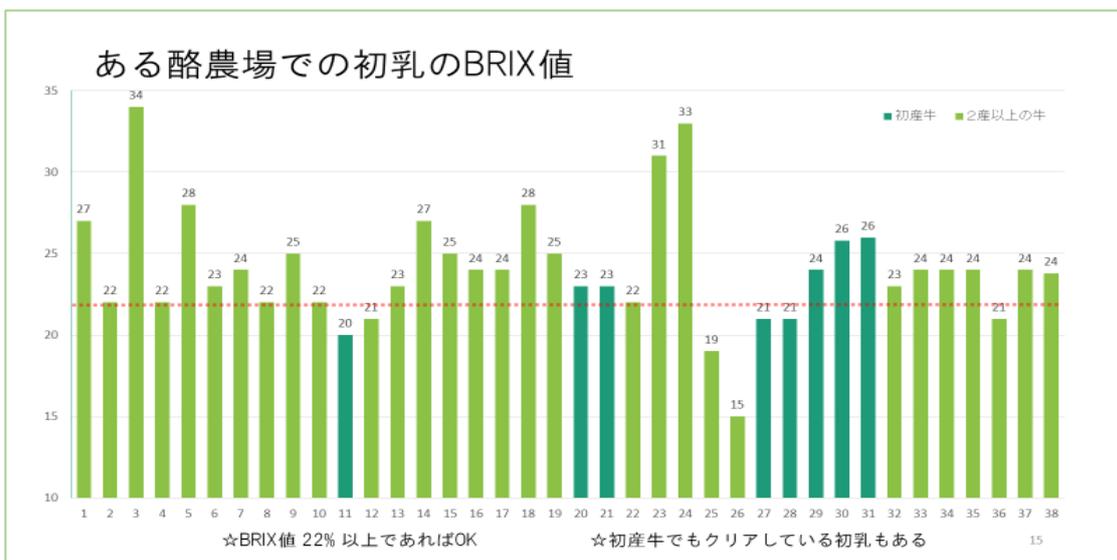
初乳は生後できるだけ早く飲ませます。目的は、初乳に含まれる免疫抗体を、効率よく子牛に吸収させることです。バケツミルクや哺乳ボトル、乳首などの器具が不衛生だと、初乳と一緒に雑菌が子牛の腸内に入り、下痢などを引き起こします。清潔な器具での哺乳を心がけましょう。

初乳は初回4割以上、飲めるだけたっぷりと与えます。初乳+常乳への移行乳は生後3日間ほど、こちらも飲めるだけたっぷりと給与できたら理想的です。

◆ 初産牛の初乳が必ずNG、ではない

初乳に含まれる免疫抗体の中の IgG 量を糖度計で計ることができ、糖度計での BRIX 値が 22%以上であれば良質初乳と判断されます。下図は、ある酪農場での初乳データで、横軸は乳牛、縦軸はその乳牛の初乳を糖度計で計った BRIX 値を表しています。

うすい緑色は 2 産以上の牛、濃い緑色は初産牛の初乳の BRIX 値で、赤い点線は、良質初乳と判断される BRIX 値 22%のボーダーラインを示しています。



従来、初産牛の初乳は抗体価が低いと言われていたますが、この結果では、初産牛でも BRIX 値 22%を超えている初乳があること、2産以上の牛でも BRIX 値が極端に低い場合があることがわかります（極端に数値が低かった母牛は、体調不良だったそうです）。

初乳が足りない酪農場では、糖度計で初産牛の初乳の BRIX 値を計ってみてはいかがでしょうか。うまく活用できる可能性が出てくるかもしれません。

それでも初乳が足りないときは、市販の初乳製剤を使います。必ず IgG 量が保証されている製剤を選んでください。新生子牛には、IgG 量 100g 以上を与えなければならぬため、例えば 1 袋の IgG 量 60g 保証の製剤なら、1 回に 2 袋を溶かして与えます。

◆ 寒さを凌ぐ



身体が冷えると体温を奪われ、エネルギーを消耗するため、カーフジャケットを着せる、吊り下げヒーターを設置するなど、子牛が寒さを凌げる環境を整えます。

コンクリート床は、敷料がたつぶりでも底冷えがひどく、お腹を冷やして下痢しがちなので、ゴムマットなどを敷いて冷気を遮断します。

(久富聡子)

☆来月も哺乳子牛の話が続けます